

第6回京都市洛西地域公共交通会議 摘録

日 時：令和7年7月25日（金）午後4時～午後5時30分
場 所：ホテル京都エミナース 3階金閣の間
出席者：別紙出席者名簿のとおり

1 開会

○ 事務局（会議の諸注意及び配布資料の確認）

○ 委員紹介

— 事務局から京都市洛西地域公共交通会議委員の紹介 —

○ 宇野会長（京都大学大学院）

（挨拶）

私はバスで洛西地域に来たのだが、やはりこの洛西地域を公共交通で移動できるということは非常に快適で安心できることである。この公共交通をどうやって守り育てていくかということを、この場で色々御意見いただければと考えている。様々な問題が発生する可能性があるが、なんとかモビリティを維持していきたいという考えなので、是非皆様方の御理解をいただきたい。

2 議題

(1) 旅客流動調査（令和6年度実施）の結果について

○ 事務局

（資料1に基づき、説明）

○ 宇野会長（京都大学大学院）

量的なものを調査結果で示していただいたが、それとは別に日々感じられることや、定期券共通化等による状況変化、この調査結果を活用していただく上での考え等、バス事業者の皆様方から少しずつ御意見を頂戴したい。

○ 児玉委員（京都市交通局）

洛西地域のバスネットワークの特徴としては、4事業者がしっかり力を合わせて協力しているという点。今回は同じタイミングで調査をしたことで、洛西地域の皆様の日頃の利用状況を把握できる貴重なデータとなっている。交通局（市バス）の状況であるが、昨年6月に鉄道駅（JR桂川駅・阪急洛西口駅）と洛西バスターミナルを最短で結ぶ路線の新設や、洛西ニュータウン内の回遊性の向上、また、運賃制度のシームレス化ということで、例えば市バス定期券で京阪京都交通やヤサカバスを利用いただけるようになった。利便性が向上し、バスの車体の色を気にすることなく（バス事業者の違いを意識することなく）乗車いただけるようにする環境作りなどを進めてきた。非常に参考になる数字なので、こういったデータも活用しながら、他の事業

者とも連携をしっかりと図りつつ、利便性の向上に努めていきたい。

○ 辻様（京阪京都交通）

昨年6月から市バス定期券等の共通利用を開始した。今回の調査までの間に正確に数えてはいないが、乗務員からは6月1日以降、徐々に利用者が増えていると聞いていたところである。また、12月上旬に当社で計測したところ、平日で約500件、休日で約110件京都市バスの定期券を利用して弊社のバスに御乗車いただいているということであった。この数字が直近では、平日で約660件、土日で約220件と大きく増加してきている。これには、元々当社の定期券を購入していたが新たに京都市バスの定期券を買い直して御利用している方も含まれており、純増ではないと考えているが、利便性については向上している。今後もこの交通事業者間のチームプレーでさらなる利便性の向上を図っていきたい。

○ 平山委員（ヤサカバス）

今年3月に当社でIC乗車券の利用が開始となった。現金での利用は60%減、回数券も40%減となっているが、減った分がICカードの御利用に移っているという結果が出ている。定期券についても共通利用を始めたので若干人数が増えている状況である。市バス定期券の共通利用については皆様から評価をいただける内容ではないかと思う一方、これまで新年度や進学時にまとめて買っていただき、それが大きな収入となっていたところが今後はご利用いただく都度収入を得ることとなるため、今現在4月～6月の収入としては約2,000万円弱の減収となっており、事業者としては痛い部分だ。今後ある程度の期間で平準化されるのだろうとは思っているのだが、その辺りのところをしっかりと押さえていきたい。敬老乗車証の御利用についても、当社では7月10日～13日の間に計測したところ、平日で800人、土休日で700人弱の方に御利用いただいている。5分の1が敬老乗車証の御利用となっている。

○ 野津委員（阪急バス）

日々のIC利用のデータと見比べてもほぼ一致しており、標準的な利用者数であると分析している。バス停を少しピックアップして4社を比較してみたが、当社の利用者では、回数券、定期券、敬老乗車証、それぞれが4社合計と比べて10ポイント程度下回っており、その下回った分がICカードで乗っているという特徴が出ている。乗車目的で見ると、通学目的が他社の利用者数と比べたら4分の1程度であり、60歳以上の御利用が半数近くになっている特徴が見られる。定期的に御利用いただいている割合が他の事業者と比べて低いのだろうと分析している。

○ 齋藤委員（NPO法人洛西福祉ネットワーク 理事長）

人口が減っていく中で、通勤・通学利用が減っていくのか等の将来のこと

を検討するためにも、地域の人口比率との関連を知りたい。

○ 事務局

地域別の数字はないが、洛西支所管内の令和7年4月1日現在の住民基本台帳の数値における構成比と調査結果を比較すると、学生を除く23歳から59歳までの比率について、住民基本台帳では38.5%、調査結果では38.9%となっており、ほぼ一致している。一方で、70歳以上で見ると、住民基本台帳では31.3%、調査結果では28.4%となっており、人口比率に対して御利用率が若干低いという数字になる。学生の方については、住民基本台帳では9%程度であるが、調査結果としては11.8%となっており、やはり日々の通学があるため人口の比率よりも御利用率が高い傾向があると感じている。

○ 平野委員（福西自治連合会 会長）

調査ではバスが走っていない地域の状況について把握できない。福西学区は市バスが運行しているだけであり、通勤に使う時間帯もアクセスが良くないため使いづらい。この調査に出ていない地域の要望をどう組み取っていくのかということは課題だと思う。今乗っている人がどういう利用状況なのかというのはこれで分かるだろうが、乗っていない人の要望というものを把握していただきたいと思っている。

○ 事務局

今回の調査結果は、あくまで現在御利用されている方がどのように移動しているか、こういった目的で利用されているか等を明らかにするもので、これだけではその他の方々の情報はわかりにくい。今後様々なことを検討していくにあたっては、人口等の他の要素を考え合わせながら今後のバス事業を考えていくことになる。

○ 児玉委員（京都市交通局）

福西学区の皆様にはこれまでから地域のモビリティ・マネジメント活動などで長年御協力いただいていることもあり、御要望は承知しているところである。地域の御利用状況に見合ったダイヤについて、引き続きしっかりと考えてまいりたい。

○ 齋藤委員（NPO法人洛西福祉ネットワーク 理事長）

来年1月改定の西京区基本計画と、この洛西地域公共交通会議はどの程度結びつきがあるのか。公共交通の分野においてこの会議はどの程度関与しているのか。

○ 槇田委員（京都市西京区支所地域力推進室長）

次の基本計画の内容についてはこれからの議論になるので、今の時点では

詳しく申し上げられない。しかし、現行の基本計画にも公共交通の更なる充実について記載しており、これが洛西地域の最も重要な課題の 1 つだと当然認識している。

○ **齋藤委員（NPO法人洛西福祉ネットワーク 理事長）**

構想の中に、前市長が仰っていたような先進的な取り組みを内容に盛り込むのかどうかも学識の知恵を借りて検討していただきたい。20年先の将来のことも含めて議論していきたい。

○ **宇野会長（京都大学大学院）**

地域公共交通会議は、今動いている交通サービスについてどう対応していくかを議論する場という色合いが強い。今地域で課題となっていることや運行されている公共交通、バスのダイヤや運賃などがメインの課題である。そのため近視眼的に見えてしまう部分もあるだろうが、これから先のことを考えるとそれだけでは充分でないだろうと私個人も思っているので、実務的な部分と、今後の在り方という中長期的な部分も含めて両輪で議論する機会を別途設けることも検討したい。

○ **齋藤委員（NPO法人洛西福祉ネットワーク 理事長）**

現実的な部分でいうと、阪急洛西口駅前の東行きバス停には屋根がなく、雨に降られると、乗客は非常に不便である。また、中長期的な話ではあるが、洛西地域も均一料金の地域に加えてほしいと思っている。

○ **児玉委員（京都市交通局）**

洛西口駅前バス停の屋根の設置についてであるが、道路上に屋根やベンチといったものを設置する際には道路管理者との協議が不可欠である。当該箇所については歩道の幅が基準以下であるため、上屋の設置が認められないという事情があることを御理解いただきたい。

○ **平山委員（ヤサカバス）**

全国的にバス乗務員が不足している。運輸業に限らず全ての業種で人手不足となっている。その流れは今年だけでなく来年、再来年とずっと続いていく。現時点では、今以上にバスを便利にするというのは、勝手な言い方ではあるが不可能だと考える。今年3月に当社は平日で31便減、14%減らした。大変御不便をおかけしたが、来年、再来年とさらに減便をお願いせざるを得ない社会情勢だと思っている。以前に井上先生が「これからは我慢の時代」と仰っていたかと思うが、まさにそういう時代だということを認識した中で、ではどうするのかということを真剣に考えていかなければならない。これ以上ラッシュ時間帯に減便すると今度は乗車できないお客様が多く発生するという状況。ではこれからどうするのか、本当に腹を据えて考えなければならない。我々の状況はこういった会議の場で我々事業者も十分に情報提

供できるし、皆で一緒に考えていただけたらと思う。

○ **吉田様（桂坂学区自治連合会）**

今日の会議に出席するためバスに乗ってきたが、同じ時間に同じ方面のバスが京都市バスとヤサカバスで2便続いた。桂川駅でも同じようなことが起きている。鉄道との乗換え時間の兼ね合いもあるのかもしれないが、例えば30分程度間隔があいて次のバス・違う会社のバスが来てくれたらありがたい。運転士不足もあるため減便は仕方がないにせよ、事業者間でダイヤを調整してバスの時刻を変えていただく等できればよいと思う。

○ **平山委員（ヤサカバス）**

御指摘の系統については乗務員からも課題として聞いているところ。京都市交通局との協議の中で整理できないかと思っている。

○ **児玉委員（京都市交通局）**

乗客の利便性が第一に重要だと考えており、御意見は真摯に受け止めさせていただく。

(2) その他

＜「らくさいさくらまつり2025」におけるブース出展について＞

○ **事務局**

（資料2に基づき、説明）

＜京都市洛西地域「公共交通マップ」について＞

○ **事務局**

（リーフレットに基づき、説明）

○ **宇野会長（京都大学大学院）**

ホームページ等に掲載されるのか。

○ **事務局**

昨年度に発行した際もホームページに掲載しており、今回も同様に掲載予定。加えて、スマートフォンで地図を見ていただけるような形にしようと考えている。

＜その他＞

○ **野津委員（阪急バス）**

阪急バス大原野線の63系統について、令和9年3月末をもって廃止検討を進めている。この路線については慢性的な赤字路線ということで利用客の減少が続いてきたところに、コロナによる収入激減があり、さらに収支が悪

化した。このため、減便の実施や東向日駅前の車庫の閉鎖等により運行環境の効率化を図ってきたのだが、それでも大きな赤字を計上する状況が続いている。加えて前回の協議会でも申し上げたが、昨今、運転士の確保が極めて困難な状況が続いており、路線の見直しを加速せざるを得ない状況にある。これまでも効率化やコスト削減などの運行の維持に向けた取り組みは続けたが、残念ながら当該路線の継続は困難であるという判断に至った。この6月の66系統の善峯寺方面の廃止に続いて地域の皆様には大変御不便をおかけすることになるが御理解いただきたい。また、今後は代替交通検討に協力していきたいと考えている。

○ 小原委員（西京区自治連合会 副会長／大原野自治連合会 会長）

阪急バスについては、この6月に66系統が廃止になった。私自身、学生時代や通勤でも阪急バスを利用していた。地域の足であったが、66系統が廃止になり、小塩は公共交通の空白地となってしまった。地元の大原野の住民だけでなく、沿線の方にも驚きや憤りがあったと聞いている。この衝撃が冷めやらぬ中で、ただ今の報告があった。これから大原野の住民はどうしたらいいのかと思っている。

バス運転士が不足しており、致し方ないことと納得してきたところだが、何か考えていただくことはできないか。廃止となると復活は難しいと聞いているため、一旦休止という形にできないかと思うのが正直なところである。大原野の公共交通空白地域の拡大は阻止しなければならない。私としては、例えば京都市バスの西9号系統の路線の変更やダイヤ改定等を検討事項に入れていただきたい。地域の公共交通のこれからの将来像をどう描くか、今後の取り組み方やより良いものとなることを見つけ出せるようお願いしたい。

○ 楨田委員（京都市西京区洛西支所地域力推進室長）

小原会長から地元の声をあげていただいたが、やはり63系統の廃止が地域に与える影響は大きい。運転士不足は十分に理解するが、なんとか存続できないか御検討いただければと思う。廃止が避けられないという場合においても、洛西地域を支える4社のバス事業者の皆様を支えていただきたく、例えば阪急バス64系統の延伸や京都市バスの西9系統の路線変更など、なんとか各事業者で協力・連携いただけないか、地域の足を守るために是非とも御検討いただきたい。

○ 藤原委員（京都市都市計画局歩くまち京都推進室事業推進担当部長）

63系統について、なんとか存続できないかをお願いしたい。一方、収支の問題もあるが、運転士がいないという課題もある。運転士の確保というのが非常に難しい状況であり、阪急バスに限らず、他の3社も同様である。各社とも運転士を確保するため様々な努力をされていることは承知しており、行政も支援しているところだが、なかなか改善の兆しが見えない。今後の見通しが厳しいというのは先ほど説明があった通りだと思う。そういった状況

も踏まえ、会社の経営判断だと思うが、存続をお願いしたい一方で、廃止の路線がなくなるということも想定し、今後の動きを検討していかないといけないと考えている。実際に、地域においてどのような移動のニーズがあるのか、地域で議論いただき、集約していただきたい。京都市も共に何ができるか、どういった形で地域の方々の足を守ることができるのかということを考えていきたい。

公共交通を維持していくためには、皆様に御利用いただくことが重要である。利用いただけないと交通手段自体を維持し、持続可能とすることは難しいという現実があるので、地域においても公共交通を利用いただく機運醸成も含めて地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

○ 井上委員（龍谷大学教授）

例えば、地域の方でバスの運転士さんを見つければ、維持はできるでしょう。担い手がいないので、私が一肌脱ごうというのも1つの方法。それ以外にも、既存路線の経路変更もあるだろうし、デマンド型の交通や、ちょっとした移動に関しては地域の方々が自分たちでサポートする、というものもある。広い視野で御検討いただいた上で、結論を出していただきたい。また、他の地域の方々も、自分の居住地でも起こるかもしれないと自分ごとと捉え、地域全体でどうしていったらいいかと考えた上で結論を出していただきたい。その時に、我々学識やバス事業者、行政の皆様方も寄り添いながらできれば良い。

今のバスの業界の平均年齢は53～54歳。60歳定年だとすると、あと5、6年したら今の運転士が半分いなくなる。バス・鉄道といった既存の乗り物以外に移動する方法も皆様と検討できれば良い。

○ 児玉委員（京都市交通局）

西9号系統は、令和6年6月のダイヤ改正で新設した系統であり、右京の里や南春日町を運行し、洛西バスターミナル、そしてJR桂川駅を結んでいる。現状、1日あたり約300人の利用がある。運行ルートを変更すると、現在のルートで御利用いただいているお客様への影響、また、所要時分が増加しないかなど様々な課題がある。運行を開始してから1年程度であるため、まずは現在のルートにおいてより多くのお客様に御利用いただきたいと考えている。引き続き、御利用状況等を注視していきたい。

○ 宇野会長（京都大学大学院）

どういう方が困るのか、どういう移動が必要なのか、ぜひ地元の皆様の中で状況を把握いただき、それをどう支えていけるのか、本当にバスでないといけないのか、違う形もあるのではないかとということも考えていただきたい。この地域公共交通会議には、より広域の移動を支えていただく事業者や、タクシー協会も参画いただいている。京都市内では、タクシーを使った公共交通といった事例もあるので、そのような手段も可能だろう。色々な選択肢が

あるので、その地域のニーズに合った形、必要性に合った形、必要な移動に対応できる形での検討を考えるべき。それほど時間はないが、継続的な議論も避けられない。まずは地元の中で状況を把握いただいた上で、また次の機会に、議論をさせていただければと考えている。交通事業者、地元の皆様、学識経験者、行政、それらの関係者が「共創」という発想でやらなければ困難だろう。

○ 藤原委員（京都市都市計画局歩くまち京都推進室事業推進担当部長）

バス事業を取り巻く環境は非常に厳しい状況。あらゆる機会に事業者の皆様とお話しさせていただくが、やはり担い手についてはどの事業者も厳しいと仰っている。公共交通を守っていくという役割を行政として果たしていくためにも、住民の皆様と事業者の取り組みについてはしっかりと支援したい。大原野の件については、まずは地域の移動のニーズを把握するということが大切。どのような形で地域にマッチさせていくのか、色々な視点や手法があるだろうと思う。引き続き取り組んでいきたい。昨年に続き、公共交通マップを作らせていただいた。これらを活用いただき、例えば自動車で行く時、週に一度はバスに切り替えていただく等の地道な取組が重要だと我々も考えている。

○ 井上委員（龍谷大学）

旅客流動調査の結果というとても貴重なデータが出た。これをどうやって活かしていくかが、今後の会議の基本となる。今回のデータを活かして、洛西らしいサービスや路線のあり方を考えていただきたい。同じ時間帯に同じようなバスが来ているといった声もいただいたので、ぜひ御利用の中で気づいたことをこの会議の中で共有いただき、より良いサービスにしていければと思う。実際、他の地域では、5年後の公共交通の状況をふまえて本当にバスが必要か、別の移動手段でも代替できるのではと検討している地域も出ています。当該地域でバスとして残すのではなく別の移動手段で利用者を支えていくといった時代に入ってきている。京都市自体もそういうフェーズに入ってくるかもしれない。そうなった時に悩むのではなく、そうなる前に検討するのがこの会議の重要な点であるため、引き続き取り組みたい。また、未来思考のことも一緒にできればと思うので、引き続きよろしく願います。

○ 宇野会長（京都大学大学院）

これまでは利用者を増やすことを考えてきたが、そのレベルではなくなってきた。そういう意味では移動のサービスを確保し、それをどういう形で支えるかということ、先ほど申し上げた車の両輪として、短期・中長期的なことも考えて行く必要がある。今後どういうことが起きるのか、そして目の前の重要な課題としては、大原野地域の問題をどう解決していくのかということに合わせて検討していきたい。是非とも皆様のお力をお借りしながら、市民の皆様に対する移動サービスを確保できるようにしていきたいと考

えている。本当に「共に創る」ことが重要であるため、その観点で是非協力をお願いする。

4 閉会

○ 事務局

次回の協議会の開催については、改めてお知らせする。

京都市洛西地域公共交通会議 出席者名簿

(敬称略)

区 分	所属・職名	氏 名	備考
学識経験者	京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 教授	宇野 伸宏	
	龍谷大学文学部歴史学科日本史学専攻 教授	井上 学	
地方運輸局長が 指名する者	国土交通省近畿運輸局京都運輸支局輸送・監査部門 首席運輸企画専門官	中野 幸太	
交通事業者	京阪京都交通株式会社取締役管理部長	栗山 準一	代理出席 辻 栄一
	阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部 部長 (地域公共交通担当) 兼新モビリティ推進部 部長	野津 俊明	
	株式会社ヤサカバス統括部長	平山 敬浩	
	京都市交通局自動車部長	児玉 宜治	
	西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部京滋支社 地域共生室課長	今岡 弘典	代理出席 上羽 正義
	阪急電鉄株式会社沿線まちづくり推進部 部長	阿瀬 弘治	
交通事業者が 組織する団体	一般社団法人京都府バス協会 専務理事	竹内 哲也	
	一般社団法人京都府タクシー協会 専務理事	足立 高広	
住民	西京区自治連合会 会長	片岡 純治	
	西京区自治連合会 副会長 大原野自治連合 会長	小原 喜信	
	福西自治連合会 会長	平野 健三	
	N P O法人洛西福祉ネットワーク 理事長	齋藤 信男	
	桂坂学区自治連合会 事務局長	立川 裕美	代理出席 吉田 美和子
	らくさいっこわくわく隊長	大竹 莉瑚	欠席
労働組合	京阪京バス労働組合 執行委員長	俣野 健二	欠席
道路管理者	国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所事業対策官	籠谷 建太郎	
	京都市西京土木みどり事務所長	渡邊 剛	欠席
交通管理者	京都府西京警察署交通課長	西村 利文	
市長が指名 する者	京都市都市計画局歩くまち京都推進室 事業推進担当部長	藤原 啓吾	
	京都市西京区地域力推進室長	乾 隆志	欠席
	京都市西京区洛西支所地域力推進室長	槇田 雅也	